

## 授業科目

## 臨床化学I

担当教員名 三嶋 行雄	対象学年	2	対象学科	臨床
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

## ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○		

## 授業の概要

病気の診断や予後の判定などの指標となる生体試料（主に血清）に含まれる成分を学び、それらの測定方法や臨床的意義を概説する。

## 授業の目的

- 1 生体試料中に含まれる成分の分析法を理解する。
- 2 検査データの精度管理について理解する。
- 3 病気の診断や予後の判定などに必要な情報を提供する生体試料中に含まれる成分の化学的性質を理解する。
- 4 病気の指標となる各種成分の分析法を理解する。
- 5 病気の指標となる各種成分の臨床的意義を理解する。

## 学習目標

- 1 臨床化学分析の目的と意義を説明できる。
- 2 精度管理の方法やその評価について説明できる。
- 3 臨床化学検査で使用されている成分を説明できる。
- 4 臨床化学検査における分析方法を説明できる。
- 5 検査値の臨床的意義を説明できる。

## 授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	臨床化学とは、臨床化学分析の特徴	講義	三嶋 行雄
2	臨床化学分析における精度管理	講義	三嶋 行雄
3	臨床化学分析の基礎と定量法	講義	三嶋 行雄
4	電解質：ナトリウム、カリウム、クロライド	講義	三嶋 行雄
5	電解質：カルシウム、無機リン	講義	三嶋 行雄
6	糖質：グルコース	講義	三嶋 行雄
7	糖質：グリコヘモグロビンほか	講義	三嶋 行雄
8	脂質：リポ蛋白	講義	三嶋 行雄
9	脂質：コレステロール	講義	三嶋 行雄
10	脂質：中性脂肪、リン脂質	講義	三嶋 行雄
11	脂質：その他の脂質成分	講義	三嶋 行雄
12	蛋白質：総蛋白、アルブミン	講義	三嶋 行雄
13	蛋白質：血清膠質反応、血清蛋白分画ほか	講義	三嶋 行雄
14	非蛋白性窒素：尿素窒素、クレアチニン	講義	三嶋 行雄
15	非蛋白性窒素：尿酸、ビリルビン	講義	三嶋 行雄

## 使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	臨床化学検査学	浦山 修、中山 年正、入野 勤 他	医歯薬出版株式会社	2015年	5,600円＋税	
参考書	異常値の出るメカニズム	河合 忠、屋形 稔、伊藤 喜久 他	医学書院	2014年	6,000円＋税	
	臨床化学	前川 真人	医学書院	2012年	4,500円＋税	

その他の資料						
--------	--	--	--	--	--	--

**評価方法**

病気の診断の指標となる成分とその分析法および臨床的意義についての理解度を15回の講義中に3回程度の小テストおよび期末試験で評価する。

**履修上の留意点**

疾病と検査値の関わりを学ぶので項目毎に異常値の出るメカニズムを予習して臨むこと。

**オフィスアワー・連絡先**

火曜日 3限・4限 N508号室 mishima@nuhw.ac.jp